

がん CT 画像読影のひきだし

稲葉吉隆, 女屋博昭, 清水淳市, 前田章光(編)

福岡大薬学部教授・臨床薬学/福岡大学病院薬剤部

松尾宏一

がん患者の CT 画像から患者の病態を より深く理解するために

がん医療の現場では、多種職・多診療科による
キャンサーボードなどのカンファレンスが広く行
われ、薬剤師や看護師などの医療チームのメン
バーが、これまで以上に CT 画像を見る機会が増
えている。しかしながらメディカルスタッフが読
影に関する教育を受ける機会は乏しく、放射線科
医が普段から「どのように捉え」、「何を予測しな
がら」読影しているか知ることは難しい。

本書のポイントは「序」にあるように、到達目
標を「自力で CT 読影ができる」という高いレベ
ルに置くのではなく、若手のメディカルスタッフ
が「症例報告会における医師の議論やカルテの記
載内容を理解し、患者さんの病態をより深く理解
できるようになる」という、取り組みやすかつ
実践的なレベルに設定したことだ。そのため、全
編において難解な理論については深く立ち入らず
にシンプルな内容に徹し、CT 画像に詳しくない
読者でもスムーズに内容を理解できる。とはい
え、初学者が学習すべきことはしっかり押さえら
れており、その結果、本書のターゲットであるが
ん医療に携わるメディカルスタッフにとって非常
に理解しやすい入門書となっている。

本書は「章」に相当する計 7 段の「ひきだし」
で構成され、1 段目の「総論」に続いて 2 段目
では「正常画像」について書かれている。われわれ
は普段から疾患を抱える患者の画像(異常像)ば
かり見ているので「正常画像と異常像はどのよう
な違いがあり、その二つをどのように比較するの

か」という当たり前の視点や考え方を忘れがちなの
かもしれない。以前、ある著名な腫瘍内科の医師が、
「研修医は患者の(所見や検査値の)悪い点ばかり
を探しがちで正常な点を見ようとしない。『(悪い
点ばかりの指摘なのに)この患者は生きているの
ですか』と意地悪く問いたい気持ちになる」とおっ
しゃっていたことがある。そういう意味で、「ま
ずは正常画像を先に学ぶ」という考え方を本書で
は目次上で体现しているのは実践的であるし、好
感を持つ。また 5 段目では「臓器別」に、6 段
目では「臨床課題別」にがん CT 画像読影のポ
イントをさまざまなケースを通して詳しく丁寧に解
説している。本書に記載されているようなケー
スに関する知識が備われば、多くの症例で放射線科
医がどのように状態を捉え、何を予測しているか
を推察するには十分であろう。

がん患者の CT 画像から患者の病態をより深く
理解するために、ぜひ本書を多くの方に読んでい
ただき、本書で身につけた「ひきだしの中身」を
活用して、がん CT 画像に日々接する医療チーム
の一員として活躍してほしい。



●B5/頁 240/2022 年
定価：4,950 円
(本体 4,500 円＋税 10%)
[ISBN978-4-260-04928-3]
医学書院 刊